



第74回日本皮膚科学会西部支部学術大会
ランチョンセミナー9

爪白癬は 治せる時代

— 皮膚科医として完全治癒を目指す —

日時

2022年 **10月23日**(日)
11:30～12:30

会場

久留米シティプラザ
D会場(4F「Cボックス」)
福岡県久留米市六ツ門町8-1

本セミナーはライブ配信も実施します。

詳細は「第74回日本皮膚科学会西部支部学術大会ホームページ(<https://wjda74.jp>)」より
ご確認ください。

座長

下村 裕先生 山口大学大学院医学系研究科
皮膚科学講座 教授

講演

講演1

高齢者における爪白癬の治療意義
～足の健康を維持するために～

木村 有太子先生 順天堂大学医学部
皮膚科学講座 講師

講演2

完全治癒を目指す爪白癬治療
～外用剤からの切り替え
タイミングについての考察～

竹中 基先生 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
皮膚病態学分野 准教授

共催: 第74回日本皮膚科学会西部支部学術大会 / 佐藤製薬株式会社 / エーザイ株式会社



爪白癬は治せる時代 —皮膚科医として完全治癒を目指す—

講演 1

高齢者における爪白癬の治療意義 ～足の健康を維持するために～

木村 有太子 先生 順天堂大学医学部 皮膚科学講座 講師

日本人の10人に1人が爪白癬に罹患していると言われており、高齢化に伴い有病率が上昇すると考えられる。特に高齢者では、爪白癬により爪が肥厚して陥入爪に伴う疼痛が生じると歩行が困難になる。さらに、歩かなくなると筋力が低下して転倒リスクが高まり、広い意味でフレイルやロコモティブシンドロームの入り口になると考えられる。こうした理由から、高齢者における爪白癬の治療意義は大きい。爪白癬の治療薬であるホスラブコナゾールは、活性本体のラブコナゾールの水溶性を高めることにより、生物学的利用率を向上

させたプロドラッグである。吸収に食事の影響を受けないため内服しやすい。また、内服期間は12週間であり比較的高いアドヒアランスが期待できる。第Ⅲ相臨床試験では75歳未満の高齢者への有効性と安全性については報告されているものの、75歳以上の後期高齢者の検討はされていなかった。発売されて4年経過し、多くの後期高齢者への治療経験や、臨床効果と安全性情報も報告されている。早期から積極的に高齢者の爪白癬の治療を行うことは、今後起こりうる重篤な病態を予防することができ、足の健康を維持することにもつながる。

講演 2

完全治癒を目指す爪白癬治療 ～外用剤からの切り替えタイミングについての考察～

竹中 基 先生 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚病態学分野 准教授

「皮膚真菌症診療ガイドライン2019」には、爪白癬の治療は一部の症例を除いて内服治療が薦められており、推奨度も外用剤がBであるのに対し、内服薬はAとなっている。しかし、実際には外用療法を選ばれる場合も少なくない。外用剤の完全治癒率は、ルリコナゾール爪外用液で14.9%(48週、国内第Ⅲ相臨床試験)であり、完全治癒を目指すのであれば、効果が見込めないときに、早急に内服治療に切り替える必要がある。そこで、爪外用液にて治療した爪白癬患者について、1年後の治療効果を治癒群、著明改善群、改善群、軽度改善群にわけ、3ヵ月後、6ヵ月後、1年後の白濁部の改善率を検討した。その結果、

6ヵ月後の改善率は、順に、68.8%、40.8%、34.4%、8.7%で、軽度改善群が有意に低かった。また、軽度改善・改善群、著明改善・治癒群の2群に分けて検討すると、6ヵ月時で、改善率は25.3%と56.3%であった。一部の症例では、18ヵ月後まで経過をみたが、12ヵ月時に改善率が50%以下の症例では、8例中2例しか改善がみられなかった。本研究の参加者において有害事象は発現しなかった。以上より、6ヵ月時で30%、12ヵ月時で50%の改善率が認められないと、内服治療を考慮して良いのではないかと考えた。